

平成21年度病害虫発生予報第10号(1月予報)

今月のトピックス

タカラシロカイガラムシ(さとうきび)

学名 : *Aulacaspis takarai*



立枯れ



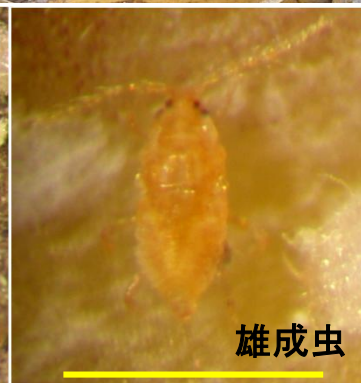
被害茎



雌介殻



雄介殻



雄成虫

スケールは1mm

生態と被害

別名タカラマルカイガラムシとも呼ばれる。雌の介殻は大きさ2～2.8mm、白色でほぼ円形で扁平。虫体ははじめ淡黄色で成熟すると淡紫色を帯びる。雄介殻は0.8～1mm、小型で細長く両側は平行し、背面に顕著な3本の縦稜を有する。年6～7世代を繰り返す。幼虫と雌成虫が葉鞘およびその下の茎に寄生する。さとうきびでは、本種が多発すると茎の表面を覆い尽くし、著しく生育が衰え、糖度が低下する。さとうきびのほか、ススキ、セイコノヨシなどイネ科植物に寄生する。宮古群島ではさとうきびに寄生し被害をおよぼすが、沖縄本島ではススキなどに多く見られる。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>